

平成 14 年 度

標準化活動報告書

平成 15 年 4 月

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会

標準化センター

目次

1. 標準化センター	1
1.1 はじめに	1
1.2 戦略プロジェクト	2
1.3 JBMS 推進小委員会	3
1.4 UI デザインプロジェクト	4
1.5 ユニバーサルデザインプロジェクト	6
1.6 カラーマネジメントプロジェクト	7
1.7 JIS 原案作成委員会	8
2. 部会標準化活動	11
2.1 複写機・複合機部会	11
2.2 ページプリンタ部会	13
2.3 カード及びカードシステム部会	13
2.4 データプロジェクタ部会	13
2.5 デジタル印刷機部会	13
2.6 シュレッダ部会	14
2.7 電子黒板部会	14

1. 標準化センター

1.1 はじめに

(社)ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA) 標準化センターとして、2回目の活動報告書をここに発行する。

標準化センターの活動も2年目に入り、活動体制が整備されるとともに着実な成果を上げつつある。2回目となる「JBMIA 合同成果報告会」は、より広い会場(三田 MN ホール)で第1回を上回る参加者を集め、充実した内容の報告が行われた。また、本年度の特筆すべき進展として、会員会社への「出張講演」を行ったことがある。標準化センターユニバーサルデザインプロジェクトのメンバーが会員会社に出向き、各社の社員に向けて「アクセシビリティ関連企画の動向と各社の取り組みの実例」を紹介した。講演会を開催した各社では大変大きな反響があり、これまでの標準化活動を越えた活動となった。また、JBMIA のロゴマーク制定と同時に発行を行った「プリンタ カラーマネジメント ガイドライン」は、利用者にとって有益であるとともに、JBMIA 標準化センターの活動を広報することにも役立った。

現在、工業標準化法の改正作業が進められているが、改正の結果工業会における標準化活動の重要性がますます高まることが予想されている。本報告書が今後標準化活動を進める上での資料としてお役に立てば幸いである。

1.2 戦略プロジェクト

(1) 活動概況及び活動成果

平成 14 年度の JBMIA 標準化戦略は、平成 13 年度に作成した標準化戦略の見直しを行うことに留め、タイトルも JBMIA 標準化戦略（平成 14 年度版）とした。

背景と標準化戦略のフレームワーク

・標準化をめぐる世界の動き

- EUは世界市場における欧州産業の競争力強化のため、国際標準化活動を重点政策として積極的に支援
- 米国はIT産業の指導的地位を強化するために、デファクト標準の獲得に注力、国レベルでも「米国国家標準化戦略」を策定し米国技術の国際規格制定に注力
- 消費者保護サイドからの国際規格提案や、環境規制面での標準化の動きが活発
- WTO/TBT、電子商取引、MRA(相互認証)、政府調達など国際取引の基盤確立のための基準作り

•JISCの「標準化戦略」

- 日本工業標準調査会（JISC）の「21世紀委員会報告書」を提言(2000年5月)
- 27分野にわたる技術分野毎の「標準化戦略」、IT戦略会議の「e-Japan重点計画」(2001年度)
- 「新時代における規格・認証のあり方特別委員会」を検討中(2003年5月)

•JBMIAの標準化の課題

- 情報分野での標準化のリーダーシップ
- ユニバーサルデザイン、環境などの分野の積極的標準化
- 関連業界とのIT分野の標準化のハーモナイズ

•標準化戦略のフレームワーク

本戦略の相互位置づけは下記の通りである。

備考：JBMIA 標準化戦略は Power Point データの為、15 頁以降に掲載した。

1.3 JBMS 推進小委員会

(1) 活動概況

JBMS 原案のエディット

- ・各部会で作成した JBMS の改正原案の様式審議および修正意見を具申。

JBMS (簡易) 作成マニュアルの普及促進

- ・マニュアルの普及を目指し、使い易いものへ改定する。(2003年1月開始)

(2) 主要成果

JBMS 改正案のエディット

下記7件の改正案のエディットを終了した。

- ・JBMS 01 (複写機用語)
- ・JBMS 08 (静電複写機の仕様書様式)
- ・JBMS 19 (静電複写機性能試験方法)
- ・JBMS 32 (電子写真式複写機・プリンタ用カット紙)
- ・JBMS 71 (事務機器 - 報知音)
- ・JBMS 17 (シュレッダの仕様書様式)
- ・JBMS 62 (シュレッダ性能試験方法)

「JBMS 及びTRの頒布方法」を提案

JBMS 及びTRの普及促進を目指し、Webでの無料公開を具体的にまとめ、標準化センターに提案した。結果として提案は承認され、2003年度に公開の運びとなった。

(3) 今後の活動

JBMS 原案のエディット

各委員会・部会で作成した JBMS の制定原案及び改正原案の様式審議および修正意見を具申。

JBMS (簡易) 作成マニュアルの普及促進

マニュアルを使い易いものに改定し、各部会への普及促進を図る。

JBMS の維持・管理及び運営に関する基盤整備。

標準化に関する外部情報の収集と情報交換。

1.4 UI デザインプロジェクト

(1) 活動概況

ステアリングチーム

- ・各 WG の活動の把握と調整

各 WG 活動の進捗把握と BMLinkS など他組織との案件の調整や来年度の活動テーマのまとめ及びデザイン関連戦略プロジェクトとリンクした計画の調整を行った。

- ・今後の標準化テーマの探索

2001 年度に BMLinkS の操作性を想定した UI 検討を行ったが、そこで考えられる標準化テーマを検討した。先行的な UI の標準化を模索したが、結論に至らず、継続検討テーマとした。

UI 用語 WG

- ・BMLinkS 用語

BMLinkS で使用される用語に関して日本語及び英語の標準用語案の作成を行った。

- ・MFP 用語の標準化

コピー機能とプリンタ機能の用語を中心に検討。BMLinkS 用語作成を優先させたため、本標準化に関しては、標準化に至らなかったが、各社で使用されている用語の一覧を作成した。

計 92 項目を検討し、2003 年 3 月現在 4 用語について評価を実施中。

- ・用語評価

評価方法の検討と評価ツールを検討中。

Visual Language WG

- ・JBMA ロゴ作成

JBMA の組織変更に伴う新規ロゴの作成及び評価を行い、正式ロゴとして理事会での承認を得た。

ロゴの運用を含めたロゴガイドラインの作成作業が残されている。

- ・図記号基本原則ガイドラインの検討

図記号の意味分類（図記号文法）の検討を行った。2002 年度末までに TR 化を図る予定。

- ・ステープル応用図記号

ステープルに関連した図記号 3 点（ステープル補給、ステープルづまり、ステープルづまり除去）を検討してきた。2002 年度中に審議を終了の予定。

- ・ユニバーサルシンボル（操作行為誘導示唆シンボル）に関する現状調査及び検証、検討

- 擬似高齢者と車椅子による複写機操作、文字の見易さとボタンの押し易さの検証
- ユーザー領域の検証のため、基本動作作業手順の検証（ジャム処理、手差し、用紙補給、ADF,通常コピー、トナー補給）を行った。
- ・新規図記号提案
ニーズの高い操作機能図記号（セット、キャンセルなど）に関して5ジャンル（OS、AV 機器、PDA、携帯電話、デジカメ）における図記号を調査中。
- ・他の工業会との連携
図記号に関して他の工業会との連携を進めている。
主な連携相手： CIAJ、JEITA 図記号専門委員会、IEC TC3 / SC3C 国内委員会。

(2) 主要成果

UI 用語 WG

- ・ BMLinkS の標準用語案が了解され、BMLinkS に実装された。

Visual Language WG

- ・ 作成・評価を行った JBMIA の新規ロゴが正式に承認され実用された。
- ・ 図記号基本原則ガイドラインの図記号意味分類パートの TR 化（2002 年度末完成予定）

(3) 今後の活動

ステアリングチーム

- ・ UI プロジェクトの運営

2002 年度までと同様、各 WG の活動お進捗の把握・テーマ推進調整、活動の立案を中心に引き続き

UI プロジェクトの運営に当たる。

- ・ 今後の標準化テーマ探索

UI の先行的な標準化の必要性に対応するため、2003 年度に関してもテーマ探索を行う。2003 年度は、有識者を招き、今後の UI の技術動向や UI に対する考えなどをディスカッションし、将来に向けた標準化テーマ検討のベースとする。2003 年度は、有識者とのディスカッションを中心に活動する予定。

UI 用語 WG

- ・ MFP 用語標準化

- コピー機能とプリンタ機能の評価を行い、TR に反映させる。（下記参照）

- FAX 機能とスキャナ機能の用語検討および標準案の作成を行う。

- ・ JBMIA-TR-2 UI用語ガイドラインの改訂

上記 MFP 用語検討の結果から、TR-2 の改訂を行う。

- ・ BMLinkS 用語の検証

BMLinkS チームより用語検証の依頼がある場合は、ドライバの UI 評価とも絡むので、ステアリングチームと相談をして検証協力を検討する。

Visual Language WG

- ・ 図記号基本原則ガイドライン

図柄の分類を中心に検討を行い、2003 年度末での TR 化を目指す。

- ・ ユニバーサルシンボル

2003 年度は、追加検証を行い、シンボルにどのようにつなげて行くことができるかを 2002 年度に引き続き検討を行う。

- ・ 新規図記号の提案及び標準化

2002 年度に引き続き新規図記号案の検討と標準図記号への追加検討を行う。

- ・ JBMS12 の改訂

2004 年が改訂の年となるので、2003 年度中に改訂案の検討を行う。

- ・ 関連工業会との連携

図記号標準化の一貫性を図るため、2002 年と同様、関連団体との連携を強化する。

2003 年 6 月 2 日～ 4 日に行われる IEC TC3/SC3C 東京会議に Visual Language WG より 2 名を派遣する予定。

1.5 ユニバーサルデザインプロジェクト

(1) 活動概況

報知音 JIS に準拠した報知音業界標準を検討した。

- ・ 報知音 J I S を業界製品に適用する最適な基準を求めた検証を行った。

JBMIA アクセシビリティ・デザイン・ガイドラインを作成した。

- ・ 情報バリアフリー委員会WG 1 へ J I S 原案のベースとして提案し採用された。

「高齢者・障害者等配慮設計指針-情報機器・サービス」J I S 原案を策定中。

- ・ 情報バリアフリー委員会 WG 1 の出席者-門田(キヤノン) 古賀(リコー) 串田(富士ゼロックス)

アクセシビリティ標準化情報の共有と対策促進の支援活動、企業訪問「キャラバン」を実施。

(2) 主要成果

報知音 J B M S 71 発行。

J B M I A アクセシビリティ・デザイン・ガイドライン TR 発行。

- 「高齢者・障害者等配慮設計指針-情報機器・サービス」J I S 原案。

(3) 今後の活動

JBMIA アクセシビリティ・デザイン・ガイドラインと JIS 整合のための改正及び JBMS 化。

この JBMS は、共通指針 JIS とセットで使用される製品分野別業界基準となる。

「高齢者・障害者等配慮設計指針-情報機器・サービス」の JIS 化と ISO 提案活動を支援する。

アクセシビリティ JIS とガイドラインに対して製品の準拠程度を判断できる評価基準を検討する。

アクセシビリティ標準化に関連する他団体との連携強化を図る。

1.6 カラーマネジメントプロジェクト

(1) 活動概況

カラープリンタのカラーマネジメントに対するユーザーの要求に答えるため、先に発行された rgb プリンタの入出力特性把握方法 (IEC61966 - 7 - 1) の日本語訳作成を実施すると共に、活動の次期スコープを検討した。参加社数 17 社 (国内ページプリンタメーカーの殆どを網羅)

カラープリンタのカラーマネジメントに対する国内外の団体との活動・連携を円滑に進めるため、積極的に活動内容を学会で発表し、また雑誌に投稿している。(国内発表 2 件)

カラーマネジメント活動の強化・効率化を目的にカラーマネジメントプロジェクトと SC28/WG6 の連携を図ると共に、CIE、ICC、JEITA、CIPA 等の外部団体と協働作業を含めた活動を積極的に推進した。

(2) 主要成果

“プリンタ カラーマネジメント ガイド” を 2002 年 5 月に発行した。(2001 年度の成果だが、JBMIA のロゴ改訂のタイミングに合わせて発行)

IEC61966-7-1 の日本語訳を作成中。4 月に発行予定。

次期カラーマネジメントプロジェクトスコープを策定した。

(3) 今後の活動

一般オフィス向けノンインパクトカラープリンタ (注記：昇華型感熱転写記録、溶融型感熱転写記録、電子写真、インクジェットを印字技術とするもの) について、各社間の色差を最小にする業界標準色再現モードを検討する。

業界標準色再現候補を各社プリンタに実装する方法として、ICC プロファイル、BMLinkS もしくはその組み合わせを候補として検討する。

各社間の色差を最小にする業界標準モードと各社推奨モード（デフォルト）の位置づけを明確化する方策を検討する。

1.7 JIS 原案作成委員会

(1) 活動概況

平成 14 年度に JIS 原案作成委員会を発足させて、次の 9 件の JIS 原案を作成し、3 月中に（財）日本規格協会へ提出した。

- 1) JIS X 6910 複写機・複合機の仕様書様式：制定
・ JIS 制定後に国際規格提案を SC28/WG3 に対して行ってもらう予定。
- 2) JIS B 9527 ページプリンタの仕様書様式：改正
・ 改正 JIS 発行後に、ISO/IEC 11160-2:1996 の改正提案を行ってもらう予定。
- 3) 情報技術機器の安全性：改正
・ IEC 60950(1995):Safety of information technology equipment が改正され、平成 11 年 4 月に発行された第 3 版を元にして JIS 原案を作成した。
- 4) クライアント/サーバモデルにおけるデータベース通信を管理するためのモバイルツールのユーザインターフェース：制定
・ 平成 14 年 2 月に制定された ISO/IEC 18021:User interfaces for mobile tools for management of database communications in a client-server model を元にして JIS 原案を作成した。
- 5) ペンベースユーザインターフェースペンベースシステムでのテキスト編集のための共通ジェスチャー：制定
・ 平成 11 年 4 月に制定・発行された ISO/IEC 14754:Pen-based interfaces-common gestures for text editing with Pen-based systems を元にして JIS 原案を作成した。
- 6) 情報技術 - ユーザシステムインターフェース及びシンボル - アイコンと機能 第 1 部：アイコン一般
・ ISO/IEC 11581:Information technology-User system interfaces and symbols-Icon symbols and functions-Part 1:Icons-General
- 7) 情報技術 - ユーザシステムインターフェース及びシンボル - アイコンと機能 第 2 部：オブジェクトアイコン
ISO/IEC 11581:Information technology-User system interfaces and symbols-Icon symbols and functions-Part 2:Object Icons
- 8) 情報技術 - ユーザシステムインターフェース及びシンボル - アイコンと機能 第 3 部：ポインターアイコン
ISO/IEC 11581:Information technology-User system interfaces and symbols-Icon symbols and functions-Part 3:Pointer Icons

9) 情報技術 - ユーザシステムインターフェース及びシンボル - アイコンと機能 第6部：アクションアイコン

ISO/IEC 11581:Information technology-User system interfaces and symbols-Icon symbols and functions-Part 6:Action Icons

次の3件のJIS原案が平成15年3月17日のJISC情報技術専門委員会で審議され、平成15年夏頃にJISとして発行される見込みである。

- 1) JIS X 6911 データプロジェクタの仕様書様式：制定
・JIS制定後に国際規格提案をSC28に対して行ってもらおう予定になっている。
- 2) JIS X 6933 テストチャートによるカラー複写機の画像再現性能評価方法(対応国際規格ISO/IEC15775)：制定
・このJISの制定によってJIS B 9523(複写機用テストチャート)及びJIS B 9524(フルカラー複写機用テストチャート)は廃止される。
- 3) JIS X 6901 カード及びカードシステム用語：制定
・JIS制定後に国際規格提案をSC17に対して行ってもらおう予定。

(2) 主要成果

JBMIAが原案作成団体となったJISの中で、次の7件が平成14年度に発行された。

- 1) JIS X 6930:2002 2値単色のテキスト及びグラフィック画像(対応国際規格ISO/IEC13660)：平成14年8月20日制定
- 2) JIS X 6934:2002 複写生産性を測定する方法(対応国際規格ISO/IEC14545)：平成14年6月20日制定
- 3) JIS B 9514 タイムレコーダ性能試験方法：平成14年9月20日改正
- 4) JIS B 9528 タイムレコーダの仕様書様式：平成14年9月20日改正
- 5) JIS X 6305-1 識別カードの試験方法 - 第1部：一般的特性の試験：平成15年2月20日制定[対応国際規格：ISO/IEC 10373-1:1998(IDT)]
- 6) JIS X 6305-2 識別カードの試験方法 - 第2部：磁気ストライプ付きカード：平成15年2月20日制定[対応国際規格：ISO/IEC 10373-2:1998(IDT)]
- 7) JIS X 6305-5 識別カードの試験方法 - 第5部：光メモリカード：平成15年2月20日制定[対応国際規格：ISO/IEC 10373-5:1998(IDT)]

(3) 今後の活動

平成15年度JIS原案作成対象として、次の5件を(財)日本規格協会へ提出した。

- 1) 事務機器から排出される化学物質の測定方法
・平成15年度にJIS原案作成委員会を立上げ、原案作成を行う。
・JIS制定後、国際規格提案を予定。

- 2) JIS X 6301:1998 : 識別カード - 物理的特性 (Identification cards - Physical characteristics) の改正
 - ・ 対応国際規格 ISO/IEC 7810
- 3) JIS X 6302 - 1 識別カード - 記録技術 - 第 1 部 : エンボス (Identification cards - Recording technique - Part1:Embossing) : 制定
 - ・ 対応国際規格 ISO/IEC 7811 - 1
- 4) JIS X 6302 - 2 識別カード - 記録技術 - 第 2 部 : 磁気ストライプ (Identification cards - Recording technique - Part2:Magnetic stripe) : 制定
 - ・ 対応国際規格 ISO/IEC 7811 - 2
- 5) JIS X 6302 - 6 識別カード - 記録技術 - 第 6 部 : 高保磁力磁気ストライプ (Identification cards - Recording technique - Part6:High coercivity magnetic stripe) : 制定
 - ・ 対応国際規格 ISO/IEC 7811 - 6

2. 部会標準化活動

2.1 複写機・複合機部会

(1)活動概況

複写機・複合機部会では、JBMS(案)、JIS(案)の作成、改訂などの標準化活動に関しては、技術分科会が担当している。

また、国際エネルギースタープログラム(以下、国際E と略す)を初めとする省エネ関連の規格改定や新規基準類に関する技術的な対応検討についても当分科会が担当している。

2002年度の標準化活動としては、01年度からの継続テーマであるJBMS規格改訂作業の他、ドイツ・ブルーエンジェルマーク(BAM)改定ドラフトの検討、更に今後の国際E 基準の改定の動きに呼応した米工業会(ITI)の改定案の取りまとめについて作業中である。

(2)主要な成果

静電複写機性能試験方法(JBMS-19)及び、複写機用語(JBMS-1)の改訂。

静電複写機性能試験方法(JBMS-19)は、複写機本体仕様書様式、複写機用周辺機器の仕様書様式(JBMS 8とJBMS 33)の改定完了に伴い、改定が行われた。

最新のJIS規格である画像試験や騒音試験(JIS6933、JIS X 7779等)も考慮して検討作業を行い6月に発行した。

また、複写機用語(JBMS 1)は、1985年が前回改定であり、かなり陳腐化した内容となっていた為、大幅に刷新を図り、特に、フルカラーを含むデジタル複写機・複合機に関連した用語や新しい技術に関する用語の追加、更に極力、環境関連の用語も盛り込むべく作業を行い終了したところである。

BAM(独・ブルーエンジェルマーク)の省エネ基準の改定検討。

BAMに関しては環境配慮小委員会(BAM-TF, Type エコラベル WG)が主管元として対応してきたが、昨年6月に1stドラフトが入手されたことを受け、省エネについては、国際E とも深く関連する為、特に複写機・複合機に関して当分科会で検討することとし、急ぎイニシャルコメントの提出をドイツ工業会(BITKOM)に対して行った。更に、引き続き消費電力の具体的なデータを提示することで、ドイツ環境庁(UBA)基準案の具体的な問題点及びJBMAの要望についての説明と提案を行った。

このデータは今後の国際E 改定動向を睨み、事前検討の為に予め各社の協力の下で収集*したもので、資料を提出する上で迅速かつ有効な対応ができた。

(*国際E 改定動向への対応については01年度の標準化活動報告書参照)

本年3月末のBAM 専門家公聴会開催を前にUBAと直接面会する最終的なロビー活動を

2月末に行う予定だったが、ドイツ側の都合で懸案の VOC だけに絞って実施された。従って省エネ基準に関しては、これまで BITKOM との 2 回の TV 会議を通して具体的な要望事項を UBA に伝達しただけであり、2月中旬入手の公聴会用ドラフトでは、理解はできるものの必ずしも業界として 100%満足のレベルになってはいない。よって、現在、専門家公聴会に向けて最終の要望書を提出している状況である。

国際 E 改定に向け米国工業会(ITI)が策定する業界取りまとめ案の検討 . 米国と近々 E を実施する EU は、その協調による「国際 E 基準改定計画書」を策定して、これまでに無く具体的で非常に高い数値目標(達成率は 20~25%)が掲げられた。また、2005 年末迄には改定の協同作業が完了することが明確になった。これに呼応するように昨年 10 月には米工業会(ITI)が作成したドラフト(たたき台)案が入手され、具体的な対応検討を始めた。技術分科会としては、上記 にもあるように、今後の E の改定動向を見据えて、既に、データ収集等の活動を行い、特にフルカラー機専用基準の新規策定を目標に検討中であったこともあり、迅速な対応を行うことが出来た。但し、ITI の動きも迅速かつ活発であり、短手番での対応要求等に応えるため、臨時分科会を開催して対応した。今回の改定では厳しい数値目標が示されている点、業界との Gap は明白であり、業界要望を如何に米環境保護庁(EPA)に理解させられるかが課題である。その意味で ITI との緊密な信頼関係は不可欠であり、まずは具体的なプロットデータ資料を示すことで ITI の理解を得るように努めた。

現在、4月の EPA と ITI の会議に向けて、更に具体的なデータ資料の提示を基にして業界取りまとめ案の最終調整を行っているところである。

また、一方、米環境保護庁(EPA)は企業や業界団体に対するヒアリングを始めており、本年 2 月初旬に E 担当官 2 名が、JBMA を訪問され、現状の問題点及び今後について意見交換を実施した。

(3)今後の活動

J M B S の 4 件の改定作業が一段落したところであり、下記を考えている。

国際エネルギースタープログラム基準改定案の検討

現在、米国工業会で取りまとめ作業中の業界のドラフト案が米環境保護庁(EPA)に提出されれば、E 改定ドラフト版として、日本やEUの関連する機関へも転送され本格的な検討が開始される。その為、取りまとめ段階で如何に業界要望を盛り込めるかが重要であり、米工業会(ITI)との協力関係を今後も重要視する必要がある。

具体的には Face to Face のミーティングへの積極的な参加も必要である。

また、環境に強い追い風が吹いている現在、プログラムの創世記と違い、妥協点を見出す作業は益々厳しくなると予想されるため、具体的で説得性のある対応が望まれる。

省エネ法エネルギー消費効率の測定方法の検討

複写機版に於いては、2006年为目标年度に当たり基準適合に関して判定が行なわれるが、現状 COP3 の目標達成は厳しい状況であり、更なる基準の改定や対象範囲の拡大を想定して措く必要がある。特に、デジタル複合機やフルカラー機については、追加指定されることを十分に認識し、事前検討の準備を始めることが肝要である。

また、トップランナー基準の先を見据えて、現行のエネルギー消費効率の測定方法・条件等に関する改定を積極的に検討する必要性を感じている。

2.2 ページプリンタ部会

(1) 活動概況

標準化活動として、主に次のことを行った。

- ・ページプリンタ表示基準を作成し、平成 14 年 8 月に JBMIA のホームページで公開した。
- ・カラープリンタ用語の抽出を行い、対応する英語版を作成した。これらを元に JBMS-50 ページプリンタ用語を改正する作業を開始した。
- ・JIS B 9527 (ページプリンタの仕様書様式) の改正原案を作成した。

2.3 カード及びカードシステム部会

(1) 活動概況

- ・JBMS-57 (カード及びカードリーダー・ライター仕様書様式) 及び JBMS-58 (カード通則) の見直しを行い、標準化センターに様式上の適合化を依頼した。4 月に改正発行の予定。

(2) 今後の予定

- ・ホームページに記載されているカードに関する JIS 及び ISO 規格の解説について見直しを検討中。

2.4 データプロジェクタ部会

(1) 活動概況

- ・データプロジェクタの仕様書様式の JIS 原案について経済産業省標準課との調整の結果、測定に関する附属書を参考とすることで受理して頂き、3月17日の JISC 情報技術専門委員会で審議・承認された。
- ・データプロジェクタの用語集を作成することで検討を開始した。なお、出来あがり状態によっては JBMS にすることもありうる。

2.5 デジタル印刷機部会

(1) 活動概況

- ・JBMS-63 (デジタル印刷機の仕様書様式) の見直しを行った。4月に JBMS-63 の改正を行う予定で作業を進めている。

2.6 シュレッダ部会

(1) 活動概況

- ・シュレッダに関する JBMS-17 (シュレッダの仕様書様式) 及び JBMS-62 (シュレッダ性能試験方法) の改正を行い、標準化センター経由で平成 14 年 10 月に発行した。

2.7 電子黒板部会

(1) 活動概況

- ・電子黒板は、JIS B 0117 (事務機械用語) で機器としての定義がなされているだけで、JIS 及び JBMS において単独の規格が何も制定されていないため、平成 15 年度に「電子黒板の用語」について JBMS を制定することにした。

JBMIA標準化戦略 (平成14年度版)

目次

1. 背景と標準化戦略のフレームワーク
2. 我が国の標準化戦略
3. JBMIAにおける重点課題
4. 標準化課題の整理
5. 規格提案構想

2002年12月02日

JBMIA標準化センター

1. 背景と標準化戦略のフレームワーク

•標準化をめぐる世界の動き

- EUは世界市場における欧州産業の競争力強化のため、国際標準化活動を重点政策として積極的に支援
- 米国はIT産業の指導的地位を強化するために、デファクト標準の獲得に注力、国レベルでも「米国国家標準化戦略」を策定し米国技術の国際規格制定に注力
- 消費者保護サイドからの国際規格提案や、環境規制面での標準化の動きが活発
- WTO/TBT、電子商取引、MRA(相互認証)、政府調達など国際取引の基盤確立のための基準作り

•JISCの「標準化戦略」

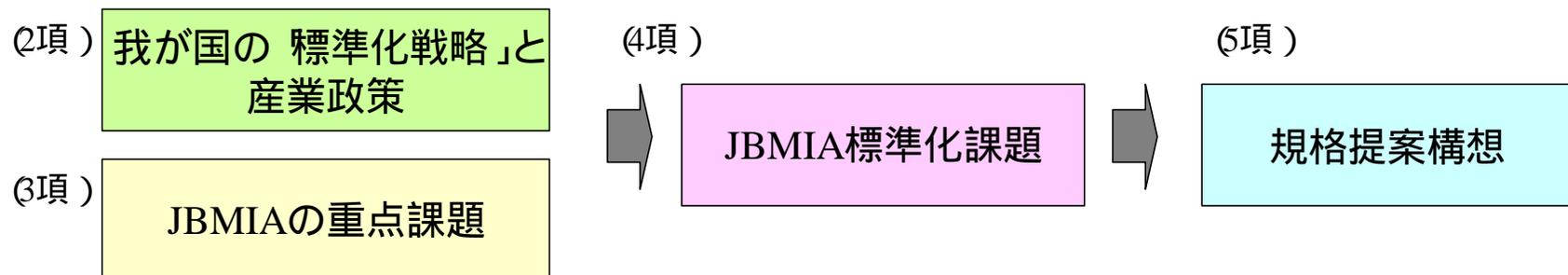
- 日本工業標準調査会 (JISC)の「21世紀委員会報告書」を提言(2000年5月)
- 27分野にわたる技術分野毎の「標準化戦略」、IT戦略会議の「e-Japan重点計画」(2001年度)
- 「新時代における規格・認証のあり方特別委員会」を検討中(2003年5月)

•JBMIAの標準化の課題

- 情報分野での標準化のリーダーシップ
- ユニバーサルデザイン、環境などの分野の積極的標準化
- 関連業界とのIT分野の標準化のハーモナイズ

•標準化戦略のフレームワーク

-本戦略の相互位置づけは下記の通りである。



2. 我が国の標準化戦略

・標準化戦略」

我が国の標準化戦略の3つの重点

市場適合性及び効率性の確保...市場ニーズへの対応、利害関係者の参画、規格作成の迅速化、環境整備（人材、広報）
 戦略的な国際標準化活動の推進...国際審議プロセスへの参画、産業界による国際提案、環境整備、アジアとの連携
 標準化活動と研究開発の一体的推進...標準化を視野に入れた研究開発、先端技術分野の標準化、関連知的基盤の整備

・分野別標準化戦略 (重要標準化分野)

情報分野	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ技術、暗号技術 ・ICカード等 ・プログラム言語、ソフトウェア技術 ・文書処理と記述言語 ・マルチメディア技術 ・バリアフリー技術 ・地理情報システム、遠隔学習技術
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・3R推進に資するリサイクル製品規格 ・リサイクル製品、リユース製品の品質確保を図るための試験方法規格 ・環境適合設計に資する規格等の制定 ・長寿命化のための製品開発規範
消費者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者保護のための規格 ・製品規格に対するJISマークのあり方
高齢者 障害者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者に配慮した製品設計手法の標準化 ・ユーザビリティ評価法
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・GPS(Geometrical Product Specification) 規格体系

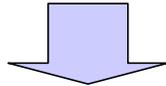
新時代における規格・認証制度のあり方

<p style="text-align: center;">産業競争力強化のツール 地球環境・安全志向、使いやすさ、消費者ニーズ 強制法規との関連の法整備</p>
<p style="text-align: center;">規格の今日的役割 消費者への情報提供 資源循環型社会構築</p>
<p style="text-align: center;">デジュールとデファクト標準 企業活動への有効性 WTO/TBT協定下のデジュール規格の再評価 フォーラム SDOとISとのリエゾン</p>
<p style="text-align: center;">国際競争力の強化 IPRと国際標準との関係 トップランナー方式の規格 研究開発との関連 コンセンサスレベルの異なる規格・技術文書の活用</p>
<p style="text-align: center;">強制法規と規格</p>
<p style="text-align: center;">製品認証・認定スキーム</p>

3. JBMIAにおける重点課題

標準化センターの設立の狙い

- 国際標準の提案・発信を強化する
- JBMIA標準化活動の統合、他団体との連携強化



JBMIA標準化戦略の方向性

キーワード:EPACS

- Environment 地球環境、Work Place重視
- Portability 情報のポータビリティ、インターフェース
- Accessibility 情報へのアクセシビリティ
- Connectivity 情報に対する接続性
- System システム機器としての進化、ソリューション



JBMIA次世代オフィスコンセプトの提案

次世代オフィスニーズ/サービスのあり方

- 環境を最適化... Workplace Enhancement
- 場・ひとを活性化... Knowledge Reactor
- プロジェクトワークを円滑化... Project Navigator

シンボルワード: ユビキタス コラボレーション

JBMIA標準化活動の重点課題と対応

ステアリング、支援活動

- 標準化戦略立案
- JBMS整備
- 広報、情報発信
- IS提案増強計画

重点標準化分野の推進

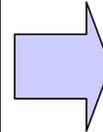
- ユーザーインターフェース (UI)
- アクセシビリティ (UD)
- カラーマネジメント(画像)

標準化活動の連携・統合

- 部会・委員会との連携活動
- MF、プリンタ、プロジェクタ、BMLinkS、環境、品質等
- 他団体との連携
- CM、スキャナ、印刷、写真機等

国際標準への主導的な取り組み

- 日本からの国際規格提案強化
- SC 28幹事国引き受け決定
- アジア諸国との連携強化



4. 標準化課題の整理

標準化分野		課題	内容	対応	備考
画像	カラー マネージメント (CMT)	オフィス機器カラーマネージメント 全体構想	標準化マップの作成 スキャナ、プロジェクタ、ディスプレイのCMT	CMT(03/03)	IEC TC100 SC28
	総合画質	総合画質の課題探索	課題調査	SC28、CMT(03/03)	SC28
IT	IT機器	モバイル機器関連のIS提案		モバイル委員会、SC28	SC35、SC28など
		カード関連のIS提案	カード関連ISのガイドライン	カード部会、SC17	SC17
	BMLinkS	仕様のデファクト化 次ステップの目標設定	実装仕様、認証試験仕様	BMLinkS委員会	デファクト
	サービス・ オブジェクト	IT関連のサービスプロトコル規 格調査	リモートダイアグノーシス、ネットワーク管理 業界間協調	オフィスシナリオ委員会	JEITAなど
デザ イン	ユニバーサル デザイン (UD)	情報アクセシビリティ指針の傘 標準と個別ガイドライン 次世代UDの概念	ガイドライン第3者評価基準と国際発信 海外調査	UD(UI)	INSTAC
	ユーザーインタフェ ース (UI) VL UI用語	MFPなどのIT機器の表示 共通ITアイコン	個別課題 :音声読み上げ	UI	JBMS
		MFP用語 共通IT用語	ネットワーク関連用語、UD関連用語 BMLinkS関連用語	UI	
	操作性	操作性評価基準 MFPなどのIT機器の操作性	UD対応ユーザIF 次世代ネットワークUIの課題調査	UD、UI UI、HCD	JBMS
	ヒューマンセンタ ードデザイン(HCD)		HCDの効果測定法	HCD	JBMS
環境・ 品質	環境測定	環境JIS	規格案の作成	環境委員会、SC28	環境JIS
	3R	電気製品のリユースに関する標準化	調査研究 規格化計画作成	環境委員会、SC28	
	品質	リサイクル製品関連規格	規格案の作成 (リサイクル製品の品質測定)	SC28	
国際 標準	SC28	議長国・幹事国業務 アジア地域の組織化	アジア太平洋セミナーの開催	SC28	JISC METI/JSA
	SC17 SC35 TC108	国際提案		SC17 SC35 TC108	

5.規格提案構想

標準化分野		過去 ~ 2002	現在 2002/2003	中期 ~ 2005	長期 2005 ~
画像	カラー マネージメント	プリンタCMT(IEC) プリンタCMTガイド(JBMS)	プリンタCMT (JIS) CMYKプリンタCMT (IEC)	スキャナ、プロジェクタCMT (IEC)	
	総合画質			画質規格 (JTC1)	オフィス照明ガイドライン(?)
IT	IT機器		プロジェクタの仕様書様式 カード関連ISのガイドライン		
	BMLinkS	(基本、DN、JD、DF仕様)	仕様公開(DF)	拡張仕様(DF)	
	サービス・ オブジェクト		(オフィスシナリオ委員会)	リモートダイアグノーシス(?)	リモート管理(?) 共通サービスプロトコル(?)
デザイン	ユニバーサル デザイン	アクセシビリティガイド (JBMS)	JIS 傘標準、デザインガイド ライン(JIS)	情報アクセシビリティ指針 (JBMS)	(次世代UD)
	ユーザーIF VL	図記号ガイドライン(JBMS)		MFP関連図記号 共通図記号(電池など)	(共通アイコンガイドライン)
	ユーザーIF UI用語	複写機用語(JBMS)	BMLinkS関連用語(?)	UD関連用語 音声読み上げ (JBMS)	(共通用語ガイドライン)
	操作性			BMLinkSドライバ仕様(?) 操作性ガイドライン(JBMS)	(共通操作性ガイドライン)
	HCD	13407素訳(ISO、JIS)	効果測定ガイドライン(JBMS)		
環境・品質	環境測定	排出物測定法(JBMS)	化学物質測定法(JIS)		
	3R				
	品質	情報用紙(JBMS)			
国際標準	SC28	プリンタスループット アジア版テストチャート	リサイクル製品の品質測定 トナーカートリッジ寿命測定	ページプリンタ仕様書様式 デジタル複写機仕様書様式	
	SC17 SC35 TC108	光メモリカード 物理的特性 情報技術機器の安全性	非接触ICカード、高速化プロ トコル 情報技術機器の安全性	ADC(アプリケーションダウンロード・ コマンド)、ハイオマトリックス	

ISO、IEC、JTC1(ISO/IEC JTC1)、JIS(TRを含む)、JBMS(TRを含む)、DE(デファクト標準)